
フィクシー

旋風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フィクシー

【Nコード】

N7352Z

【作者名】

旋風

【あらすじ】

中学生 佐々木 一也は

ある冬の日、友人の雨森の家に向かって歩いていくとある男がぶつかった。

その男こそ一也の人生を変えた人物だった。

プロローグ（前書き）

どうもこれからこの小説を書いていく旋風です
よろしくお願ひします m () () m

プロローグ

「はぁ……今日も暇だな」

佐々木 一也は川の堤防で腕を組みねっころがっていた。風が吹き、茶色の髪の毛が揺れ、その目に映るのはすがすがしい空の色だった。

すると向こうから自転車をこぐ音が聞こえ

その自転車は一也の方に向かってき、キィーと音をたてた

「一也こんな所にいたのか」

一人の黒色で短髪の少年が自転車を降りて一也を見る

「なんだ雨森あめもりか」

一也は体を起こして、大きなあくびをした。

「俺で悪かったな」

雨森は不機嫌そうな顔に変わった

「まあそんなに怒るなよ、それより俺に何のようだ？」

「明日はクリスマスだろ、だからパーティーしようかと思ってな。」

だからお前を誘いにきたんだ」

「そんなの、いかねえーよ」

一也は立ち上がって歩こうとした。

「お前の大好物のモンブランのケーキも用意するぜ」

一也の動きがピクリと止まった

「本当か？」

「ああ。本当さ」

「なら行ってやってもいいぞ。」

「じゃあ彩夏^{あやか}達も誘っとくぞ」

「わかった」

一也はうなずいた

「明日の夜7時に来いよ」と言っつて自転車をこぎ、走っていった

「さて俺も帰るか・・・」

足を動かさそうとした瞬間、一也は目眩を起し、
視界が真っ暗になった

(なんだこれは・・・)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7352z/>

フィクシー

2011年12月24日12時50分発行